

*MESA/BOOGIE*<sup>®</sup>

*Royal Atlantic*<sup>™</sup>

取扱説明書

## *Hello from the Tone Farm*

MESA/Boogieのアンプを選択されたあなたは、とても賢明なプレーヤーであり、且つ、直感力に優れた方です。それと同時に、アンプ・メーカーとしての我々に、絶大なる信頼を頂いているという事です。我々は、その期待を重く受け止めています。このアンプを選択して購入されたという事は、このアンプがあなたの音楽を表現する体の一部になったという事であり、同時に、あなたはメサ・ファミリーの一員になったのです。メサ・ファミリーへようこそ！我々の目指すゴールは、決してあなたを幻滅させる事はありません。偉大なアンプのオーナーになった今、メサの先人達が築き上げてきた様々な真空管アンプの伝統、そしてその上に新たに積み上げられた技術の全てを、あなたは享受出来るのです。これから、このアンプがあなたの音楽制作を触発し、多くの喜びを与えてくれる事は間違いありません。それは、これまで培ってきたあなたの奥底に眠る音楽に対する意欲や情熱を導きだす事であり、我々はその手助けが出来ればと願っています...私達の新たなる友へ捧げます。

## 使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従って設置して下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発生する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは2つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意:安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意:必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

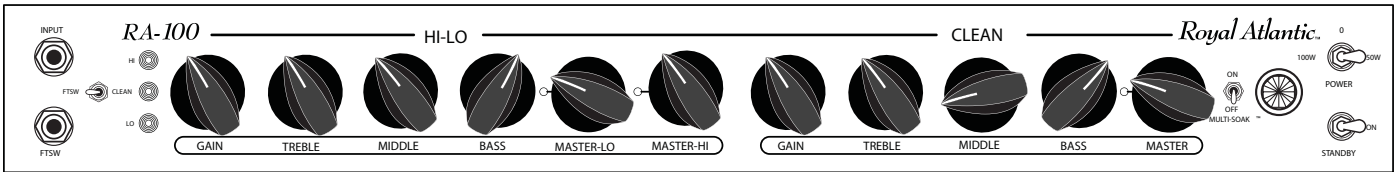
大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogieアンプはプロスペック用の機材ですので、規定に従って扱って下さい。

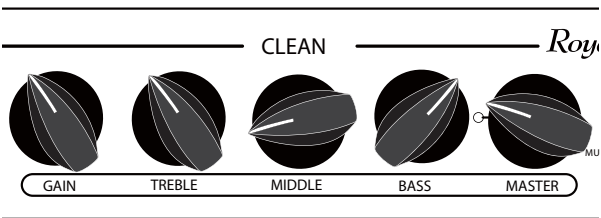
**上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!**

# フロントパネル: コントロールと特性

## チャンネル/モード:

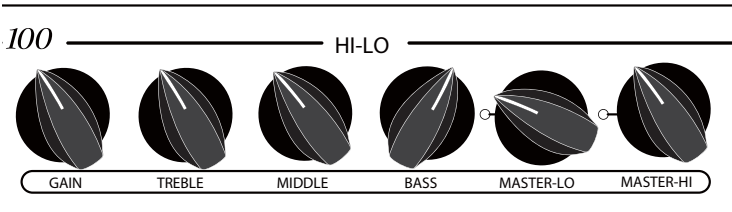


## CLEAN CHANNEL (クリーン・チャンネル):



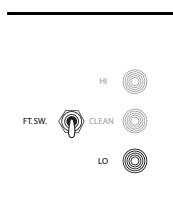
クリーン・チャンネルは、Royal-Atlanticに搭載されている3つのモードの中でも最もゲインが低く、60年代中期における“Black Face”をベースとした回路により、ヴィンテージ風のクリーン・リズム・プレイに適したサウンドとなっています。

## HI/LO CHANNEL (ハイ/ロー・チャンネル):



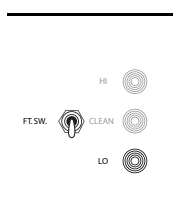
HI/LOチャンネルは、ブリティッシュ風のミッド・ゲイン・クランチ・リズムとハイ・ゲイン・ソロ・サウンドの2つのモデルで構成されており、幅広いサウンドが得られます。

## LO (ロー):



ロー・モードではフレキシブルなブリティッシュ系の音作りが可能で、ゲイン設定により音が大幅に変わります。7:30時~10:30時の間の設定でビンテージ風なクリーン・サウンド、10:30時~2:00時でダイナミック・クランチと2:00時~5:00時でヘビー・リズムとリードサウンドが得られます。

## HI (ハイ):



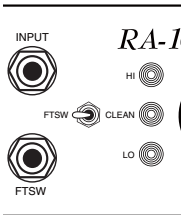
モディファイされたブリティッシュ系のアンプをベースにしたモードです。ハイ・モードでもう一つのゲイン・ステージが回路に追加され、ロー・モードよりヘビーな音作りが出来ます。ゲイン・コントロールを8:30時~11:00時に設定するとブルース・クランチ、11:30時~1:30時で激しいリズムクランチとダイナミック・ソロ・サウンドが得られます。リード・サウンドには1:30時~5:00でのセッティングがお勧めです。

注意: MULTI-SOAKを使用し、パワー・アンプ・セクションで歪みを上げる際は、ゲインを低めに設定することをおすすめします。

## フロントパネル: コントロールと特性

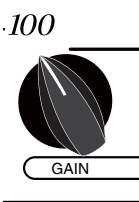
### コントロール部分:

#### チャンネル選択:



フットスイッチが接続されていない時にチャンネル/モードの選択が出来ます。またフットスイッチでチャンネル/モードの切り替えを行いたい場合は、フットスイッチを接続した状態でミニ・トグルスイッチを CLEAN (クリーン) 側に設定しておくようにしてください。

#### GAIN (ゲイン):



ゲイン・コントロールで各チャンネルのゲインの調整が出来ます。

#### TREBLE (トレブル):



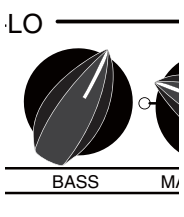
トレブル・コントロールで高音域を調整出来ます。

#### MID (ミッド):



ミッド・コントロールで中音域を調整出来ます。

#### BASS (ベース):

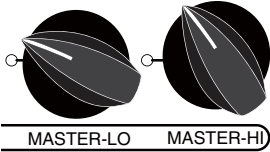


ベース・コントロールで低音域を調整出来ます。

## フロントパネル: コントロールと特性

### MASTER (マスター):

マスター・コントロールで各モードの全体的な出力レベルを調整出来ます。



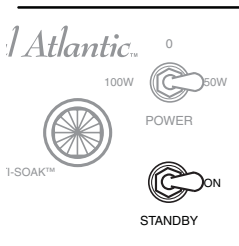
### MULTI-SOAK ON/OFF:

Royal Atlantic.

MULTI-SOAKアッテネーターのオン/オフの切り替えが可能、オンに設定した際はバックパネルにある3つのロータリー・コントロールの設定が有効になります。

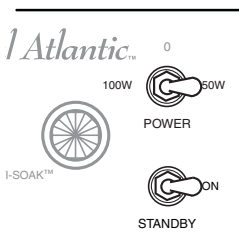


### STANDBY (スタンバイ):



STANDBYスイッチは、真空管をウォームアップするための非常に重要なスイッチです。電源スイッチをオンにする際は必ずこのスイッチがSTANDBYの状態になっていることを確認してください。電源を入れてから、最低でも30秒以上の間隔をおいてから、このスイッチをオンにする様にして下さい。この状態がオンのまま電源を入れると、真空管にダメージが加わり、真空管の早期摩耗や劣化、または故障につながる恐れがあります。良質なサウンドを長期間維持するために、必ず上記の用法をお守りください。

### POWER (電源スイッチ/50W・100W切り替え):



電源スイッチは、3つのポジションで切り替え可能なトグル・スイッチを使用しています。このスイッチはAC電源をROYAL ATLANTICに供給すると同時に、パワー・セクション出力の選択を行います。

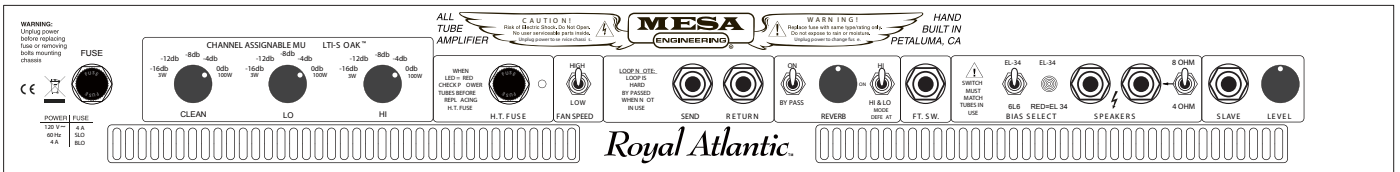
このスイッチを真ん中の“0”と表示されている位置にすると、電源がオフになります。

100Wのポジション(左)にすると、100ワットの動作をし、大きなパワーとヘッドルームのクリアで甘いサウンドを生み出します。このポジションでは、4本のEL34パワー管を全て駆動し、最も音楽的な“100ワット”ステージを実現しています。

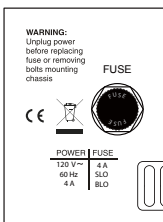
50Wのポジション(右)にすると、2本のEL34パワー管の動作で50Wの出力になり、残りの2本のパワー管がスタンバイに入ります。

# バックパネル: コントロール、スイッチと端子

## バックパネル ROYAL ATLANTIC RA-100 コンボ:



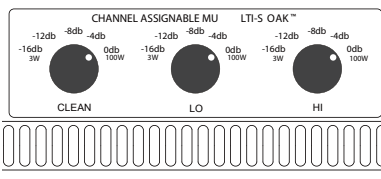
### ヒューズ:



これはA.C. (交流) のメイン・ヒューズであり、外部の突発的な過電圧等からパワー管を保護する役割を果たします。ヒューズが破損したらSlo-Bloタイプの同じ規格のものと交換して下さい。日本国内の100ボルト仕様には、4アンペアのSlo-Bloヒューズを使用して下さい。ヒューズの破損が原因と見られるパワー管の破損が起きた場合は、次の手順を踏んで下さい。STANDBY (スタンバイ) のセクションでも触れましたが、STANDBY (スタンバイ) からオンに切り替えた時のパワー管の状態を見て下さい。この時パワー管が正常でないと確認出来たら、即座にSTANDBY (スタンバイ) にして、パワー管を交換し、必要に応じてヒューズの交換も行ってください。

パワー管に特に異常が見られなければ、STANDBY (スタンバイ) からオンに切り替えて下さい。この場合、パワー管の損傷によりヒューズが飛んだことが考えられます。念のために隣の真空管、あるいは「ショットガン」トラブル・シューティングで全ての真空管を交換して、損傷していない真空管を、予備として保管するのも一つの方法です。予備の真空管は、同じく予備のヒューズと一緒に保管しておくといいでしょう。

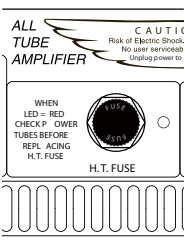
### MULTI-SOAK (アッテネーター):



この3つのスイッチは各モードにおいてアッテネーター機能をアサインすることができます。0 dBに設定するとROYAL ATLANTICがフル・パワーで起動し、4段階で最大-16dBまで出力を下げる事が出来ます。-16dBに設定すると約3Wの出力になります。

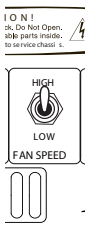
注意: アッテネーターを常時-12/-16dBで使用し続けるとパワー管の消耗は早まり、約2ヶ月~4ヶ月を目途にパワー管の交換が必要となります。

### H.T. FUSE (ハイ・テンション・フューズ):



パワー管が故障、破損した際に、H.T.ヒューズが切れLEDが赤く点灯すると同時に、パワー管故障によるサーキットへのダメージを保護します。LEDが赤く点灯したらパワー管の故障ですので、速やかに電源を落とし、コンセントを抜き、手順に従ってパワー管およびH.T.ヒューズの交換を行ってください。

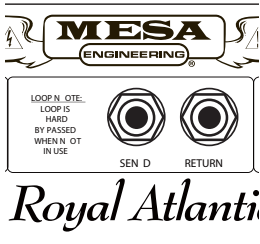
### FAN SPEED (ファンの速度):



この2つのポジションで切り替えられるトグル・スイッチでファンのスピード (速度) のHIGH/LOW (ハイ/ロー) の切替が可能です。真空管の状態を適正に保つため、HIGHに設定しておくことをおすすめします。

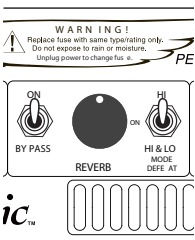
## バックパネル: コントロール、スイッチと端子

### EFFECTS LOOP (エフェクト・ループ):



ワウやコンプレッサー、あるいはゲインに影響するエフェクター以外のエフェクターをこのエフェクト・ループに接続する事をお勧めします。ディレイやリバーブやコーラスなどをエフェクト・ループで使用することにより、良質なサウンドが得られます。

### REVERB (リバーブ):



この3つのコントロールでROYAL ATLANTICのリバーブ・セクションの全ての設定を行います。ON/BYPASS (リバーブ・オフ)のスイッチおよびリバーブ・レベルコントロール、またリバーブのモード切替スイッチが装備されています。

モード切替スイッチで下記の設定が出来ます:

HI - HI/LOチャンネルで HIモードでリバーブが無効、CLEANとLOモードで有効(オン)になります。

ON - リバーブが全てのモードで有効になります。

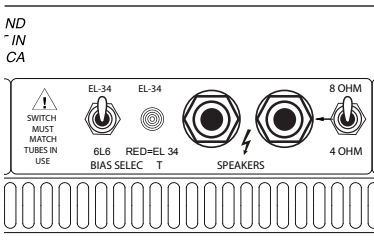
HI/LO - この設定でリバーブがCLEANモードのみで有効になり、HI/LOモードで無効(オフ)になります。

### FTSW (フットスイッチ):



付属のフットスイッチを接続するための端子です。フットスイッチでは、チャンネル、及びモードの切り替えを行う事が出来ます。

### BIAS SELECT (バイアス選択):

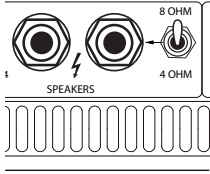


このスイッチは、4本のEL34/パワー管を6L6/パワー管に交換する際に使用します。ヨーロッパスタイルのEL34のサウンド・キャラクターは、アメリカン・スタイルの6L6と異なったサウンドキャラクターを持ち合わせています。6L6は、中高域に音質特性があり、低音域のレスポンスに優れ、高次倍音が強調されたサウンドになっています。エッジの効いた攻撃的なサウンドは、ミディアム・ゲインのコード・サウンドに最適です。3つのモード全てにおいて最もバランスのとれたサウンドは、6L6/パワー管により生み出される、美しいクリーン・サウンド、太いクランチ・リズム・サウンド、そして丸いボーカル・リード・サウンドといえるでしょう。



## バックパネル: コントロール、スイッチと端子

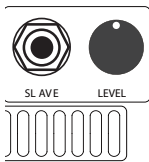
### SPEAKERS/IMPEDANCE SELECT (スピーカー/インピーダンス選択):



スピーカーケーブルでこのジャックとスピーカー・キャビネットを接続し、スピーカーのインピーダンスに合わせトグル・スイッチの切替を行います。インピーダンス・マッチング・スイッチは、8 オームか4 オームの切替が可能です。このスイッチはアンプの動作中に切り替えても、アンプを損傷する事はなく、切り替える事によりインピーダンスのミスマッチによるサウンド・キャラクターの変化を把握することができます。

メサ4x12のスピーカー・キャビネットを使用する場合は8 オームに設定し、8 オームのスピーカー・キャビネットを2台使用する場合は4 オームに設定します。メサのキャビネットは概ね8 オームとなっていますが、2x12キャビネットの中には4 オームの製品もいくつかあります。他メーカーの製品で16 オームのものは8 オームの端子に接続して下さい。ただしこの場合は、アンプの出力を全て使い切る事は出来ません。16 オームのキャビネットを2台使用する場合は、合成抵抗が8 オームになりますので、インピーダンスのマッチングをとることができます。

### SLAVE (スレーブ/出力レベル):



LEVEL (レベル) コントロールされたアンプの全回路(プリアンプとパワー・セクション)を経たサウンドが出力されますので、エフェクト・プロセッサーや他のパワーアンプに接続する事が出来ます。スピーカー出力から派生した信号を、レベルつまみで調整することにより、用途に応じた出力に設定することができます。

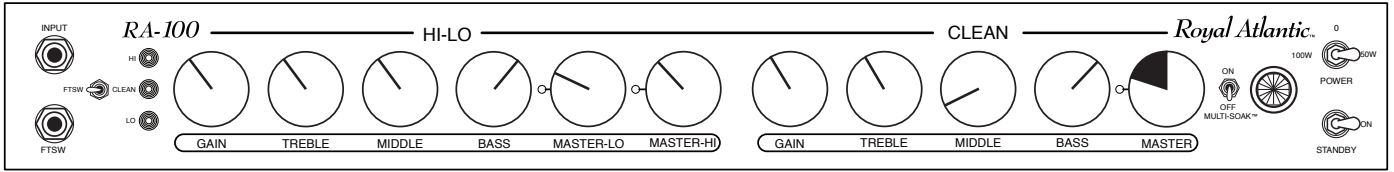
SLAVE (スレーブ) 出力は“スピーカー・シミュレーション”ではありませんので、この信号を“レコーディング出力”として使用する事は出来ません。ギター用のスピーカーはトップエンドがかなり減衰する特性があり、また超低音域に関しても出力がカットされやすい特性を持っています。このことから、ギターアンプの出力設定は高域が強調された音質特性をもっています。また、出力信号のレベルそのものも相当高くなっており、SLAVE (スレーブ) のレベル・コントロールをかなり絞り込まないと、オーバーロードによりミキサーのインプット・セクションに損傷を与えてしまう可能性があります。SLAVE (スレーブ) 出力は、他のアンプやエフェクト・プロセッサーに接続する様にして下さい。

ノート: SLAVE (スレーブ) 出力を使用してエフェクト・プロセッサーに接続する場合、その出力はEFFECTS RETURN (エフェクト・リターン) に接続しないで下さい。この接続を行うとフィードバック・ループが発生し、高音のハウリングが起こります。

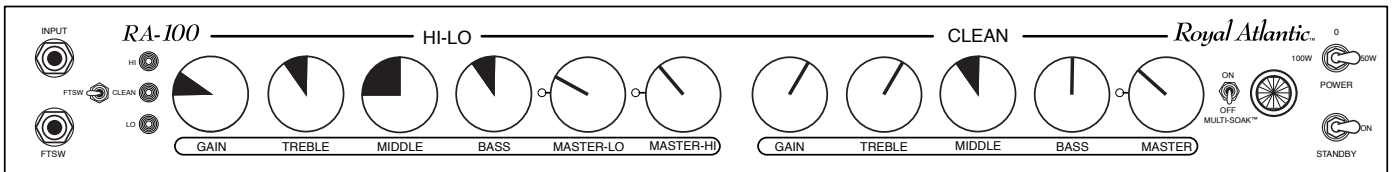
ノート: SLAVE (スレーブ) 出力を使用する場合は、必ずSLAVE (スレーブ) レベルを絞りきった状態から徐々に上げる様にして下さい。SLAVE (スレーブ) から出力される信号のレベルは非常に高く、この設定が高くなっていると、いきなり過大な音が出て耳を痛めたり接続されている機器を損傷する可能性があります。

# サンプル・セッティング

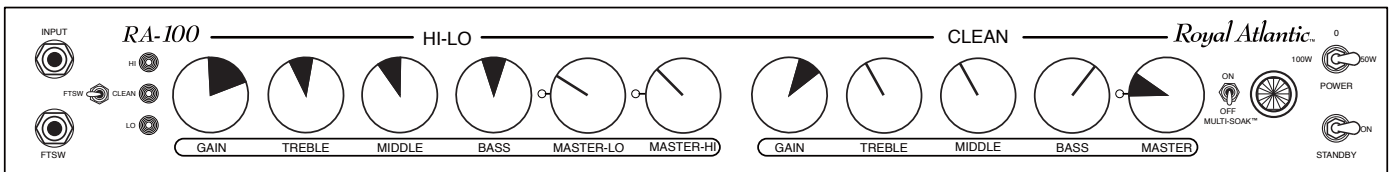
## Bright Clean, Tight Crunch, Brit Lead



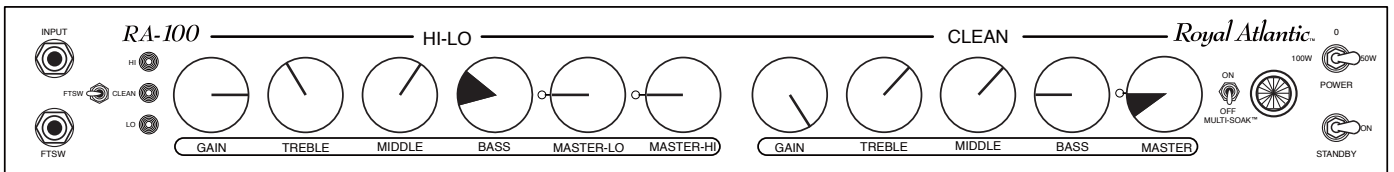
## Punchy Clean, Edge, Urgent Lead



## Fat Clean, Grind, Molten Solo

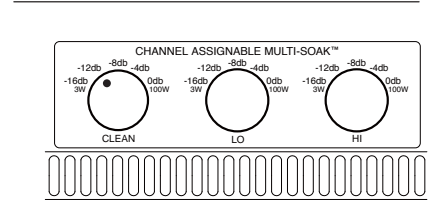
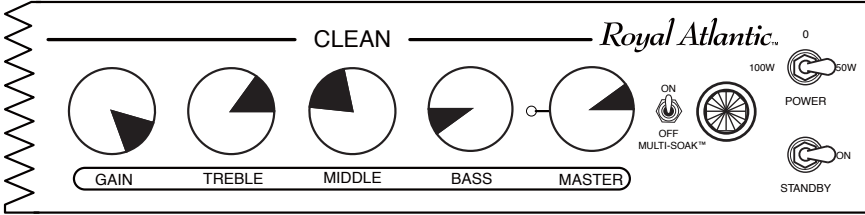


## Clipped Clean, Rock Lead, Ridiculous Gain

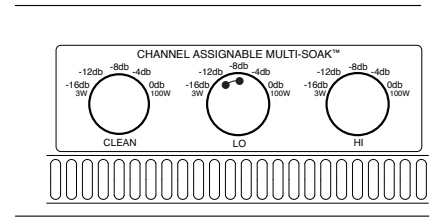
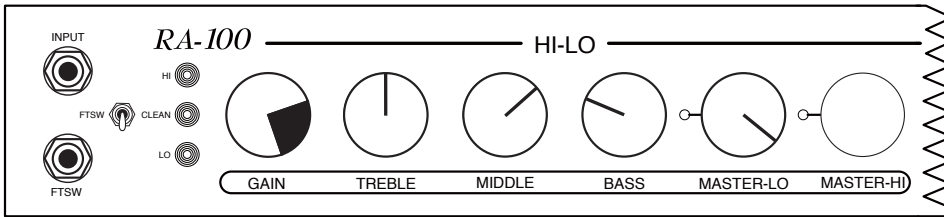


# MULTI-SOAK サンプル・セッティング

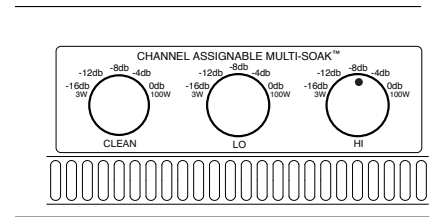
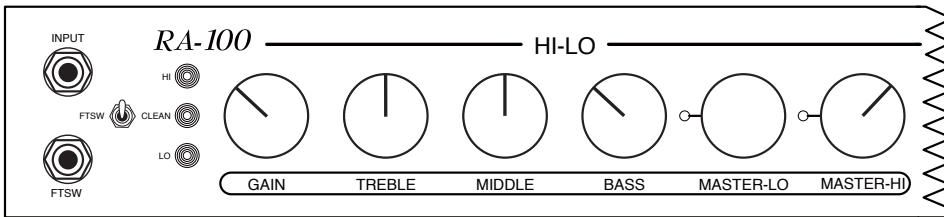
## Power Drive Clean



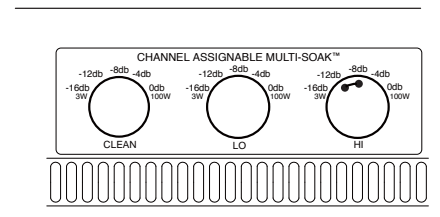
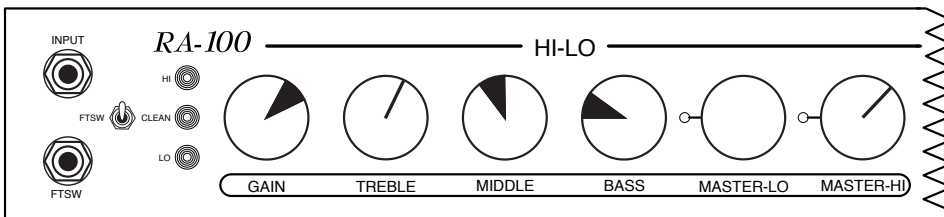
## LO Power-Solo



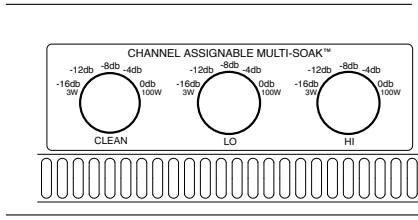
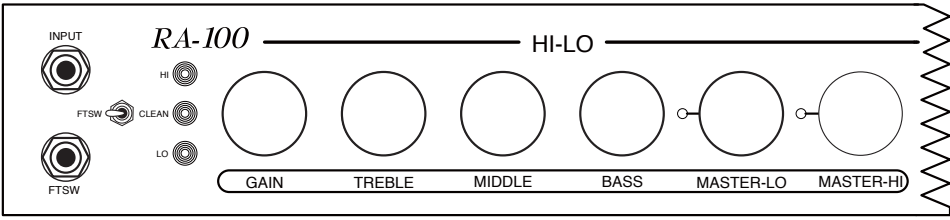
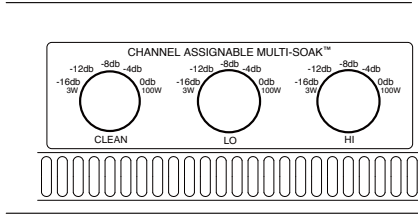
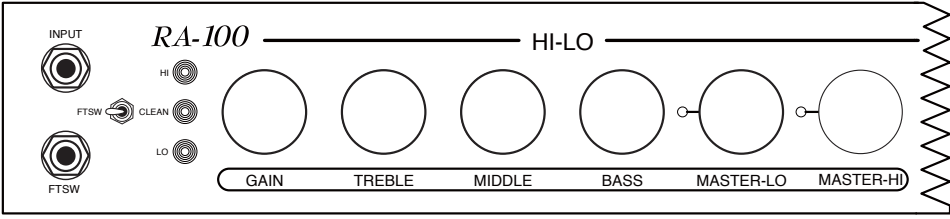
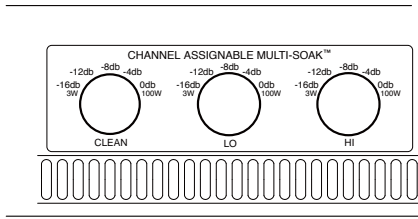
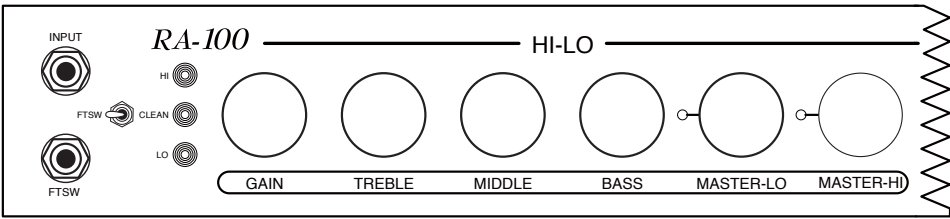
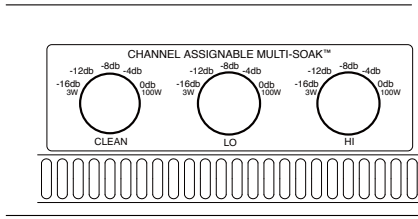
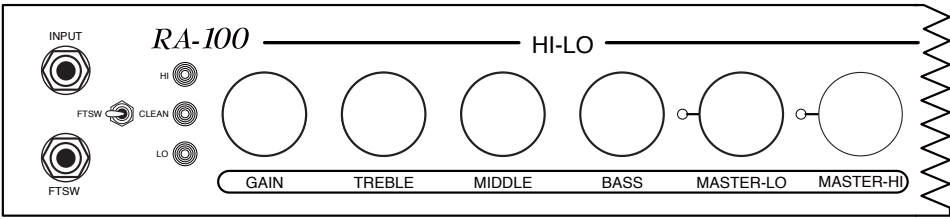
## HI Power-Drive



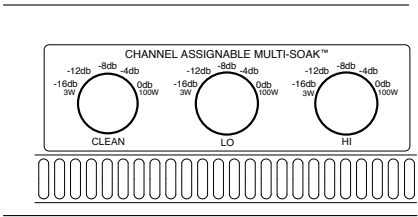
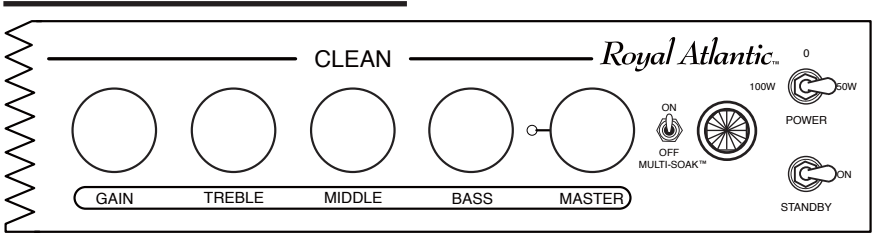
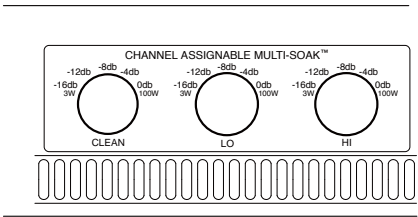
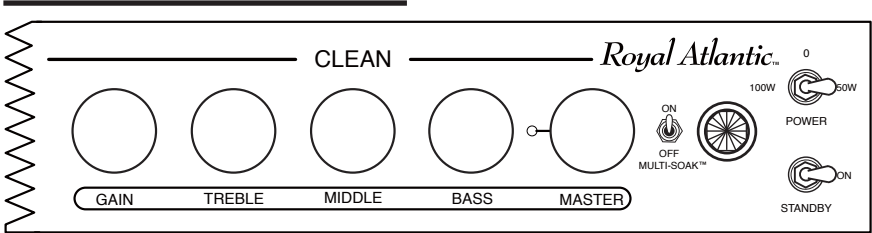
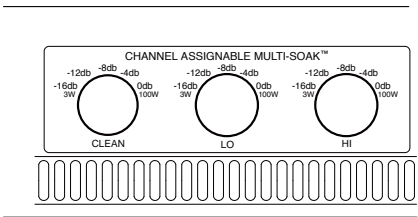
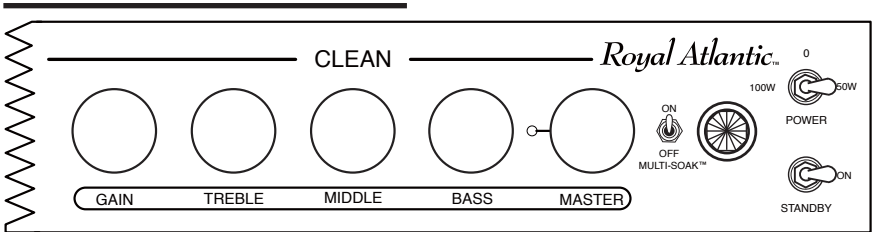
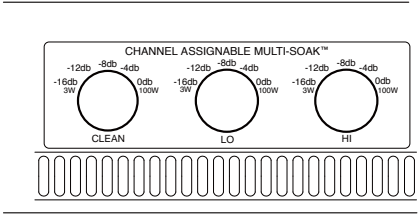
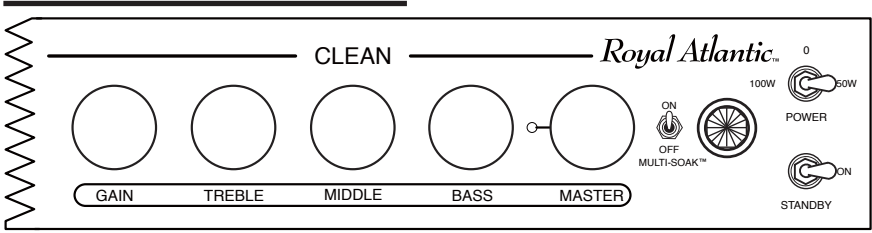
## HI Liquid Gain



# ユーザ・セッティング・テンプレート



# ユーザ・セッティング・テンプレート



## スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド:

### インピーダンス:

スピーカー接続において最も基本的で重要なのは、位相を正相にする事です。これにより素晴らしい音を出力する事が可能になります。これはそんなに難しい事ではありません。負荷についていくつかの事と、最適な負荷でスピーカーを接続する事を理解すれば良いのです。

*MESA/Boogie* アンプは、4オームと8オームを扱う事が出来ます。真空管アンプは、4オーム未満でドライブする事はしないで下さい。;これを行うと、出力トランスを損傷する可能性があります。2オームを扱う事の出来る数少ないアンプ(例えばMESA(メサ)のBass 400+)であれば大丈夫です。反対に高い抵抗値(例えば16オーム等)の場合はアンプを傷める事はありません。

### ミス・マッチング:

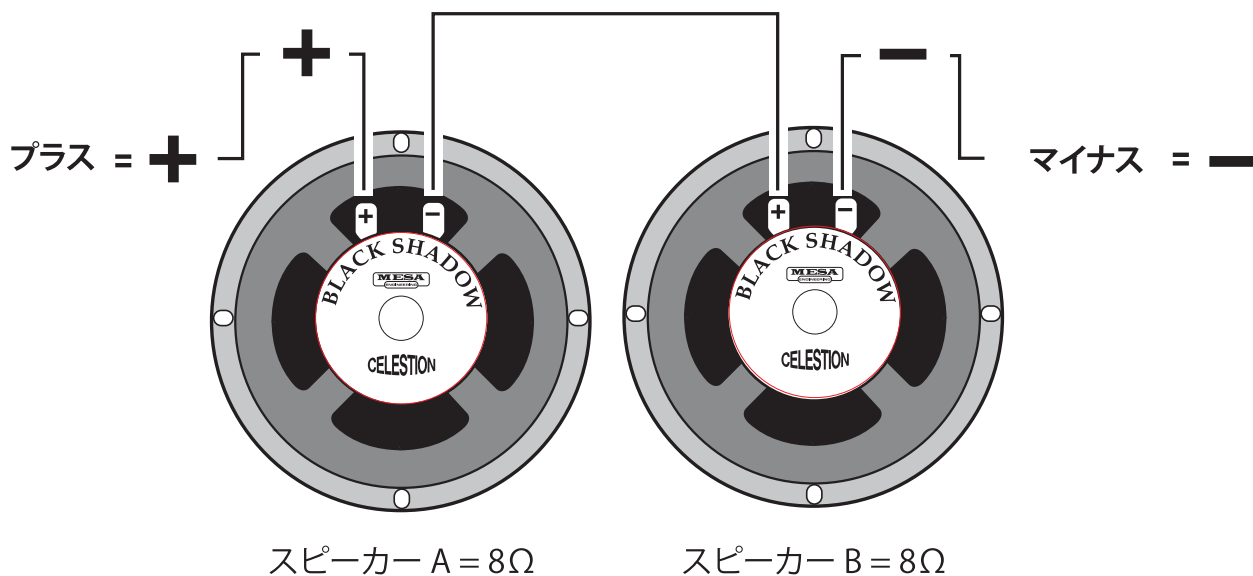
高い抵抗値(例えば8オーム出力を16オームのキャビネットに接続)でドライブすると、少しフィーリングが異なり、レスポンスが際立った感じになります。少しのミス・マッチであれば、トーンが若干暗く、出力とアタックが少し弱く、レスポンスが少し速くなる程度です。スピーカー・キャビネットが複数になると、ミスマッチは選択肢の1つになるほどです。

### キャビネット・インピーダンスの算出方法:

お持ちのスピーカーが1台の場合は、そのスピーカーのインピーダンスとアンプのインピーダンスを合わせて下さい。複数のスピーカーをお持ちの場合は、アンプにかかる負荷を計算しなければなりません。複数のスピーカーの接続方法は次の3種類になります。:

### シリーズ(直列):

スピーカーを直列に接続した場合、それぞれのスピーカーのインピーダンスを単純に加算します。例えば、8オームのスピーカーを2台直列に接続した場合は、16オームになります。

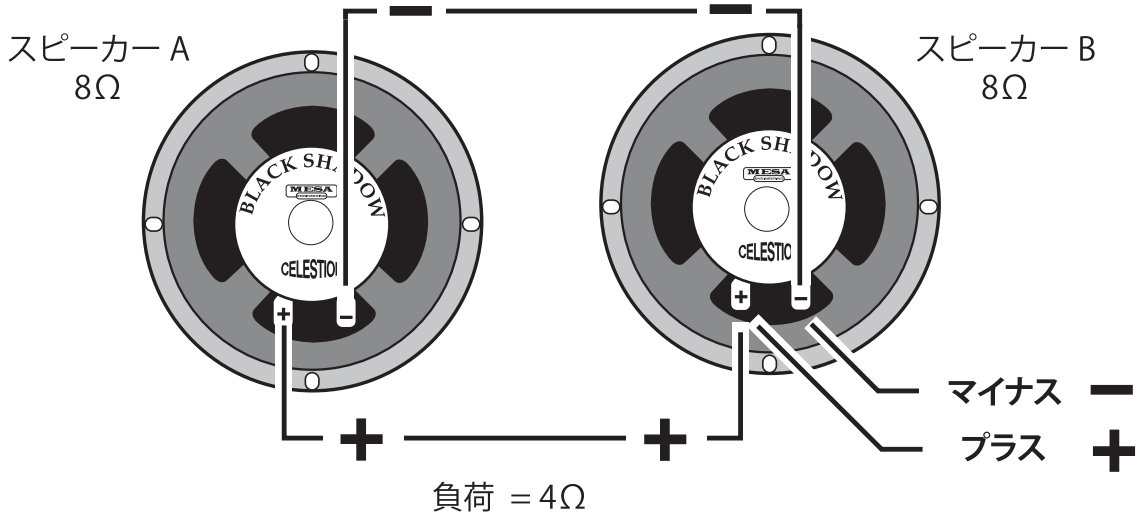


**シリーズ(直列):** スピーカーAのマイナス端子と  
スピーカーBのプラス端子を接続

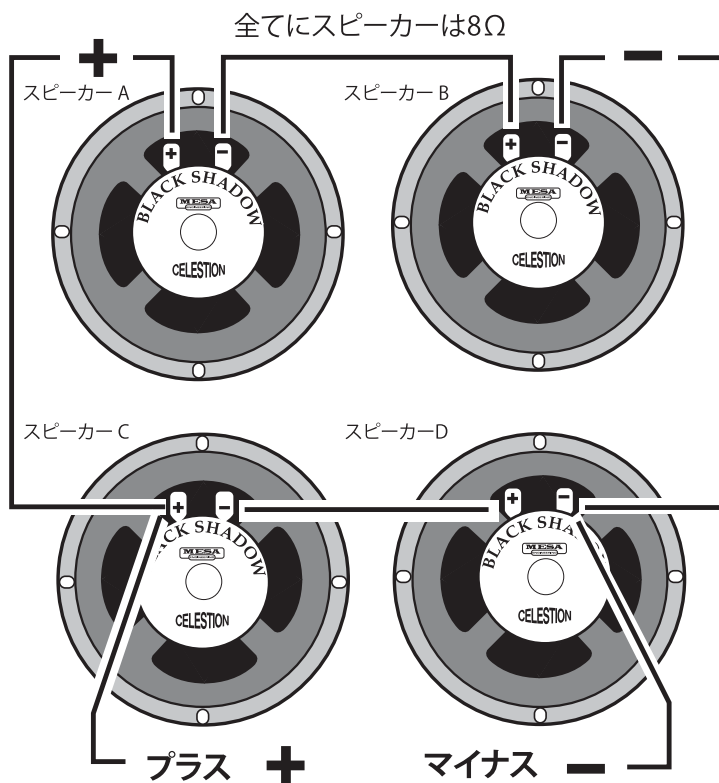
## スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド(続き):

### パラレル(並列):

スピーカーを並列に接続した場合、スピーカーの抵抗値は下がります。2台の8オーム・スピーカーを並列に接続した場合、負荷は4オームになります。接続するスピーカーが全て同じ抵抗値であれば計算は簡単ですが、異なる抵抗値のスピーカー(例えば、8オームと4オーム、16オームと8オーム等)を並列に接続する場合は、少しややこしくなります。計算式は、それぞれの抵抗値をかけ算した数値を、それぞれの抵抗値を足し算した数値で割ります。例えば8オームと4オームであれば、 $8 \times 4 \div (8 + 4) = 2.6666$ オームになります。パラレル(並列): スピーカーAのプラス端子とスピーカーBのプラス端子、スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのマイナス端子をそれぞれ接続。



### シリーズ(直列)とパラレル(並列)の組み合わせ:



これは、2セットの直列接続したスピーカーを並列に接続する組み合わせです。ここで重要なのは、全てのスピーカーの合成抵抗値が低くなり過ぎてアンプに負担をかける様子を避ける事です。

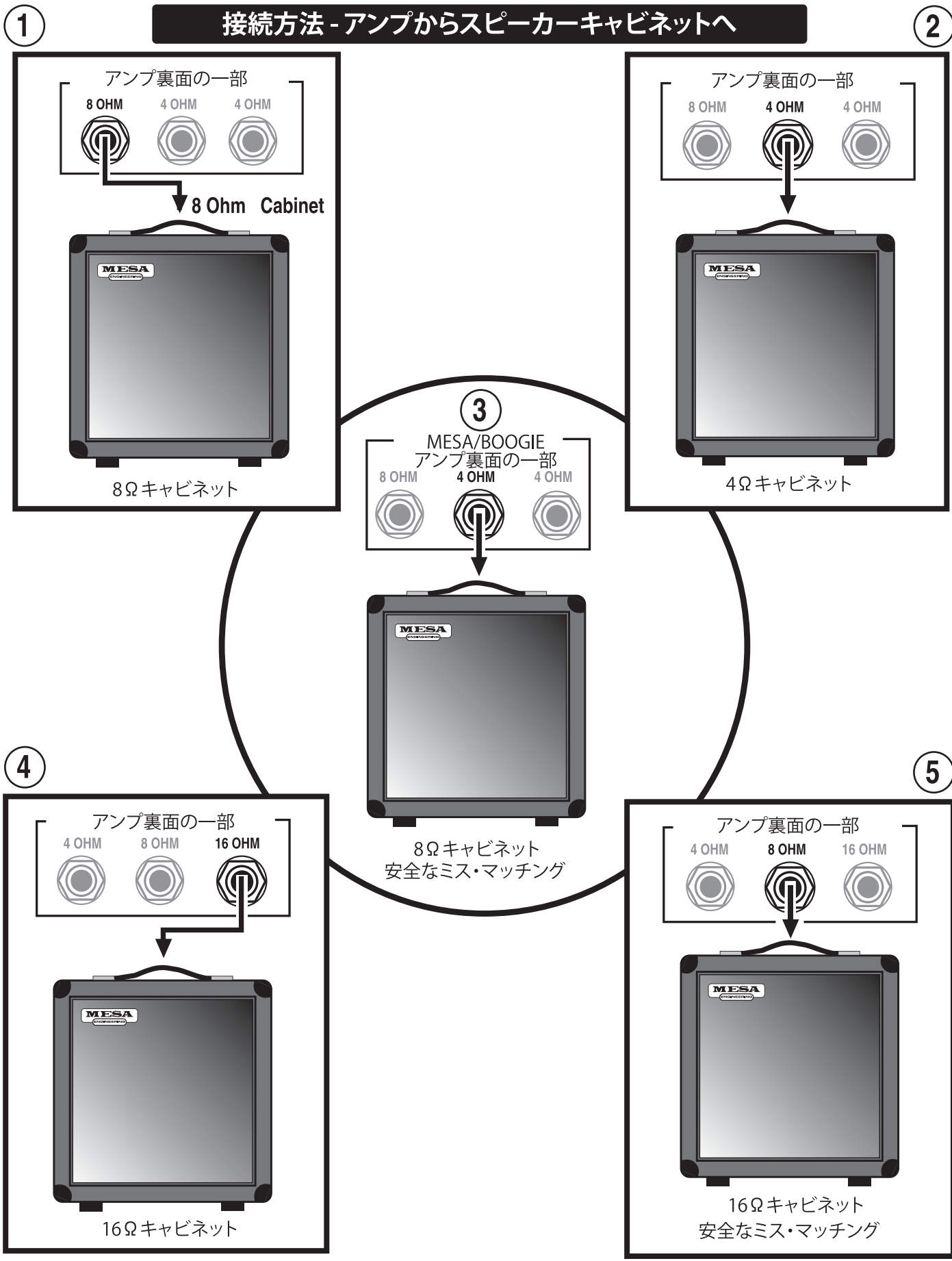
スピーカーAのプラス端子とスピーカーCのプラス端子を接続。

スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続。次にスピーカーCのマイナス端子とスピーカーDのプラス端子を接続。

そして最後にスピーカーBのマイナス端子とスピーカーDのマイナス端子を接続します。

4台の8オーム・スピーカーをシリーズ・パラレル接続した時の合成抵抗値は、8オームになります。

# 接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

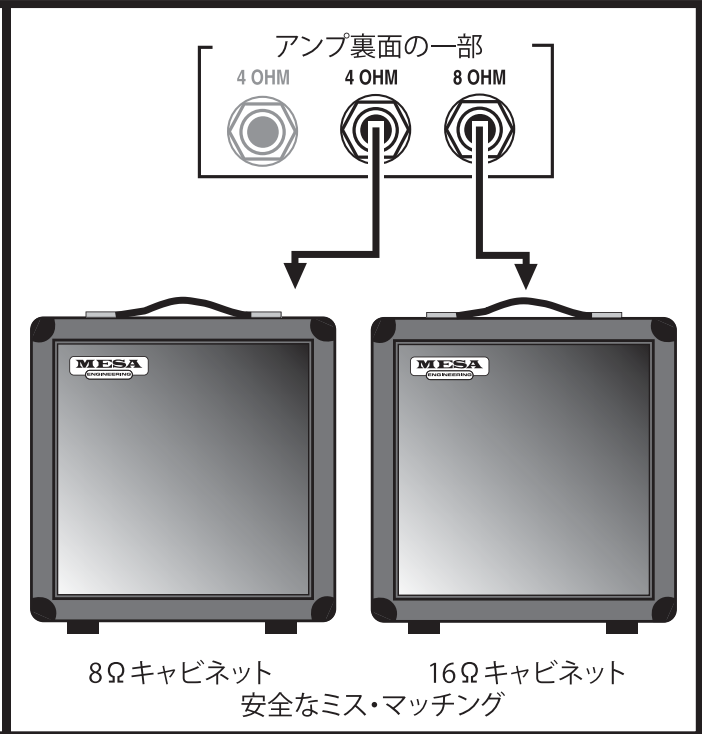
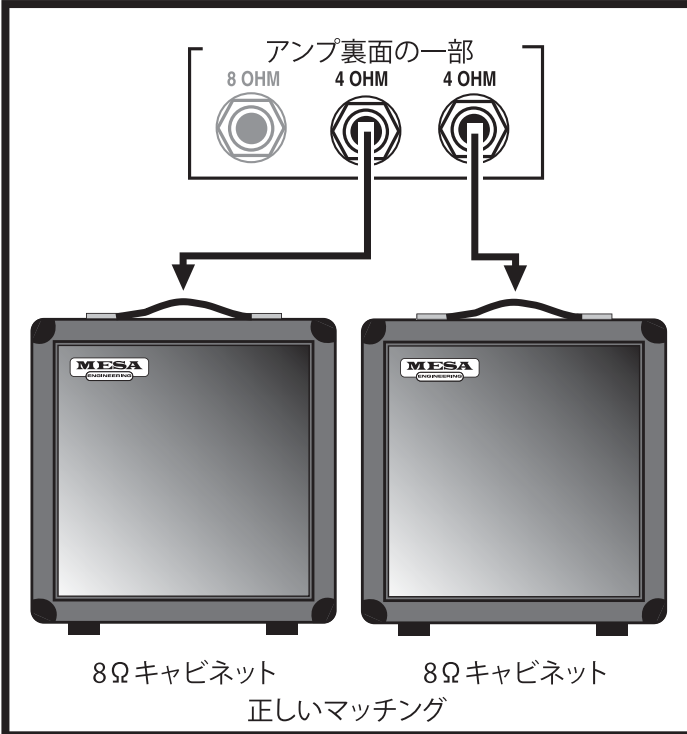




接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

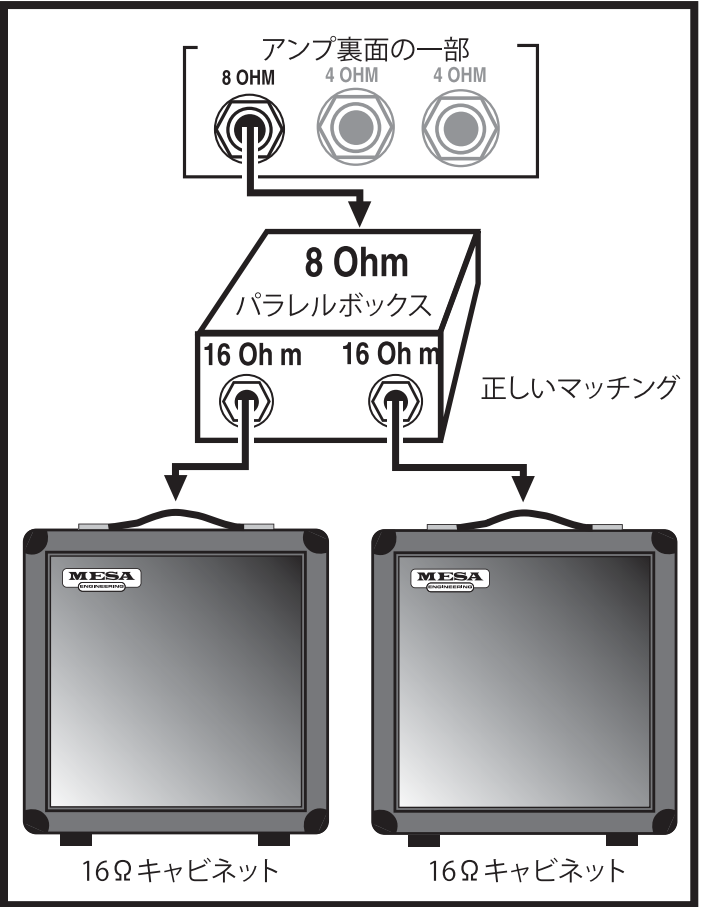
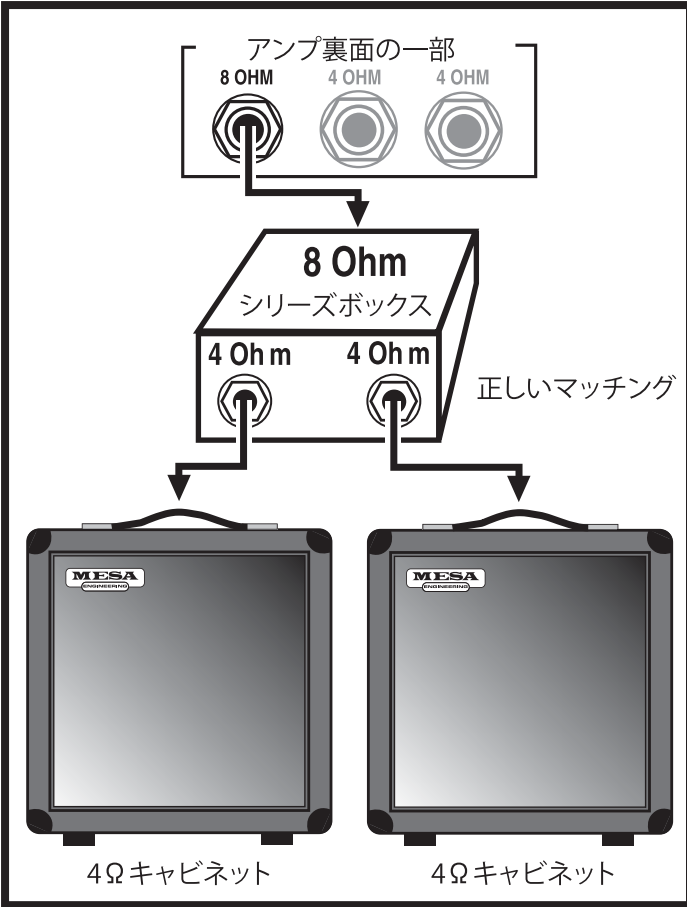
6

7



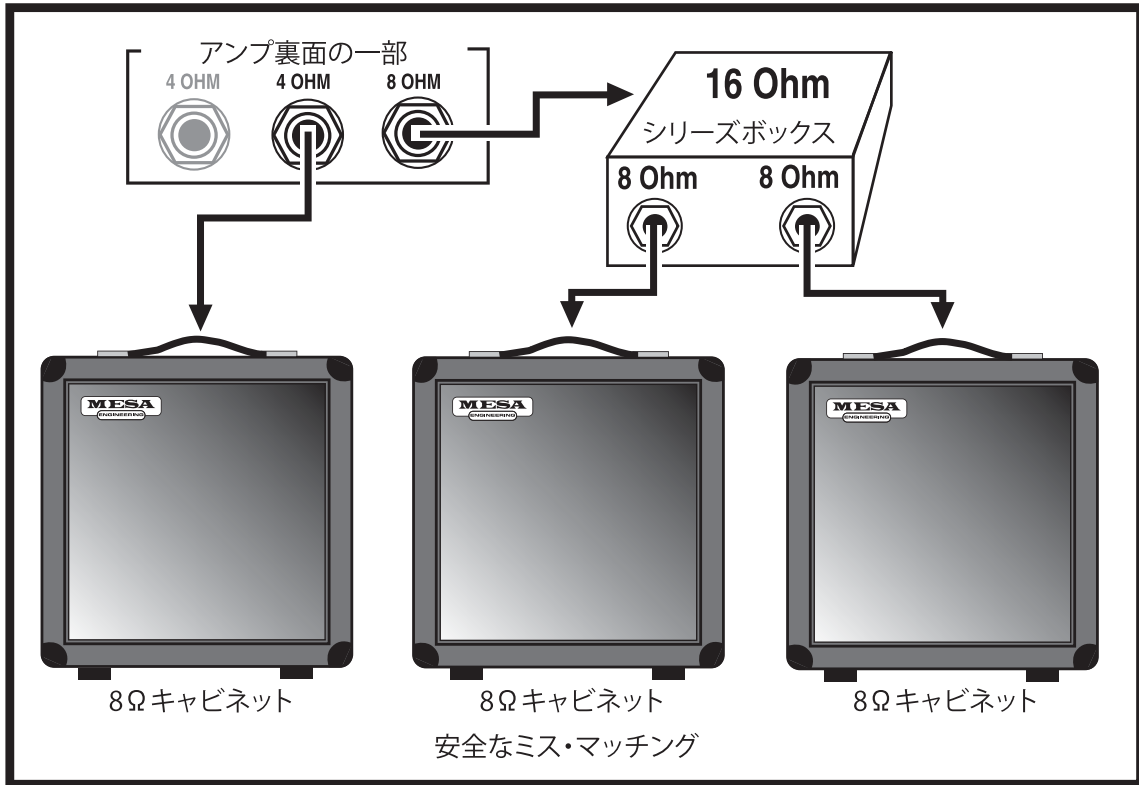
8

9

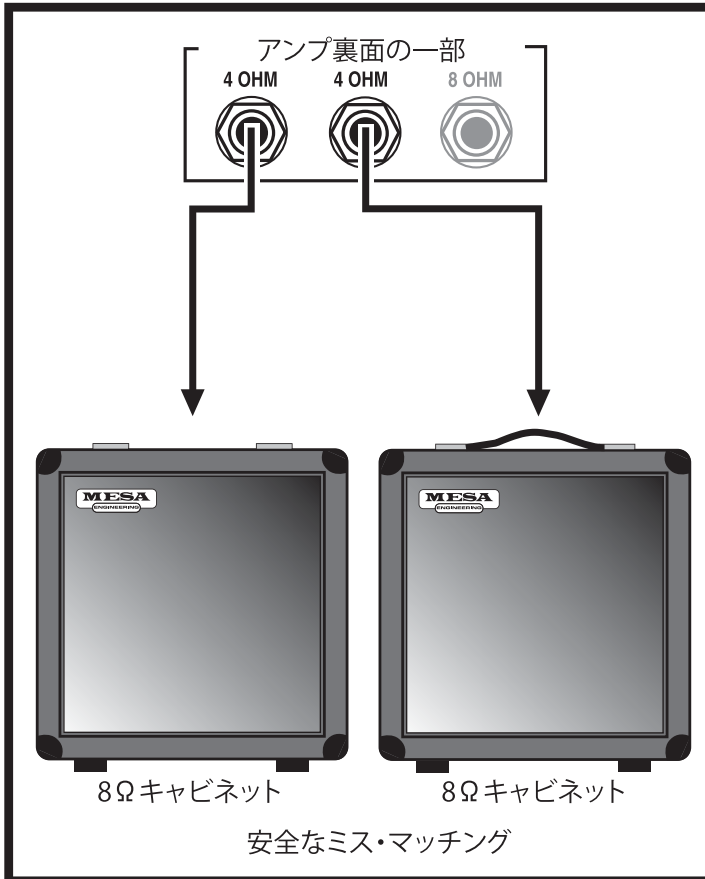


接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

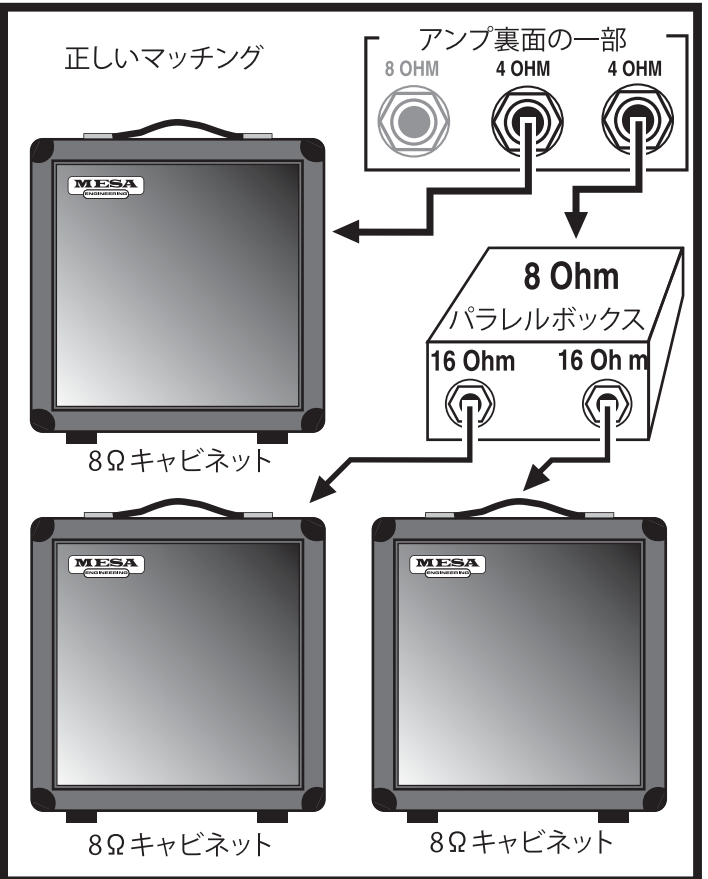
10



11

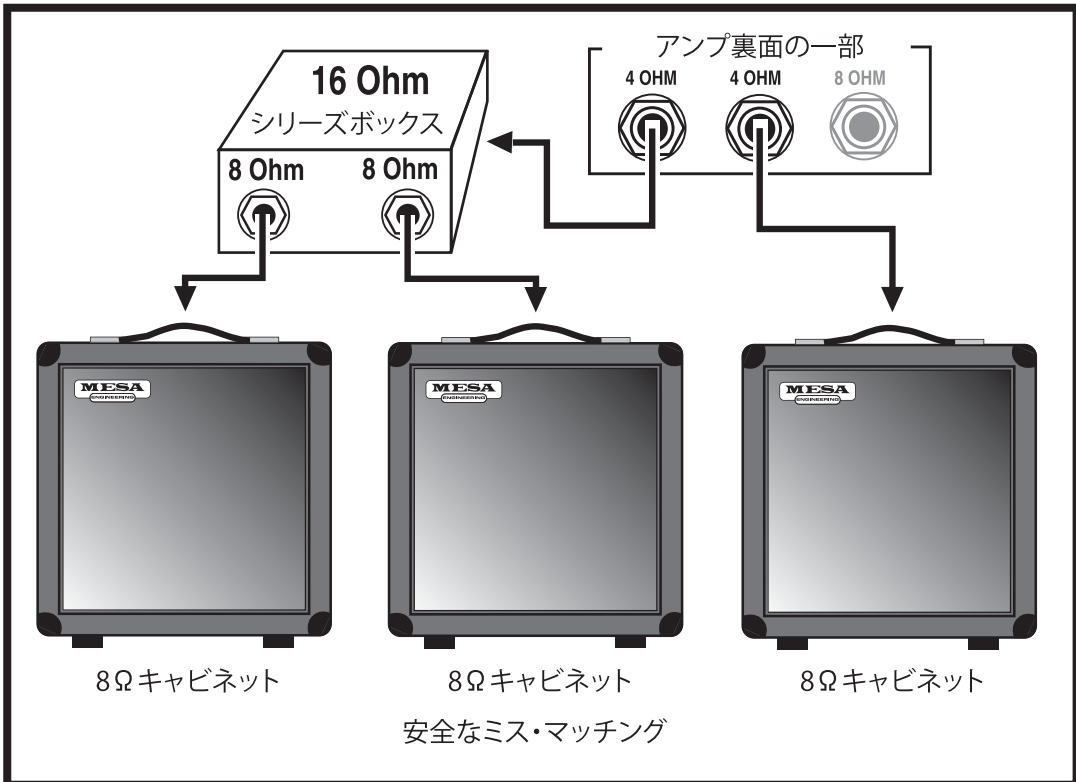


12

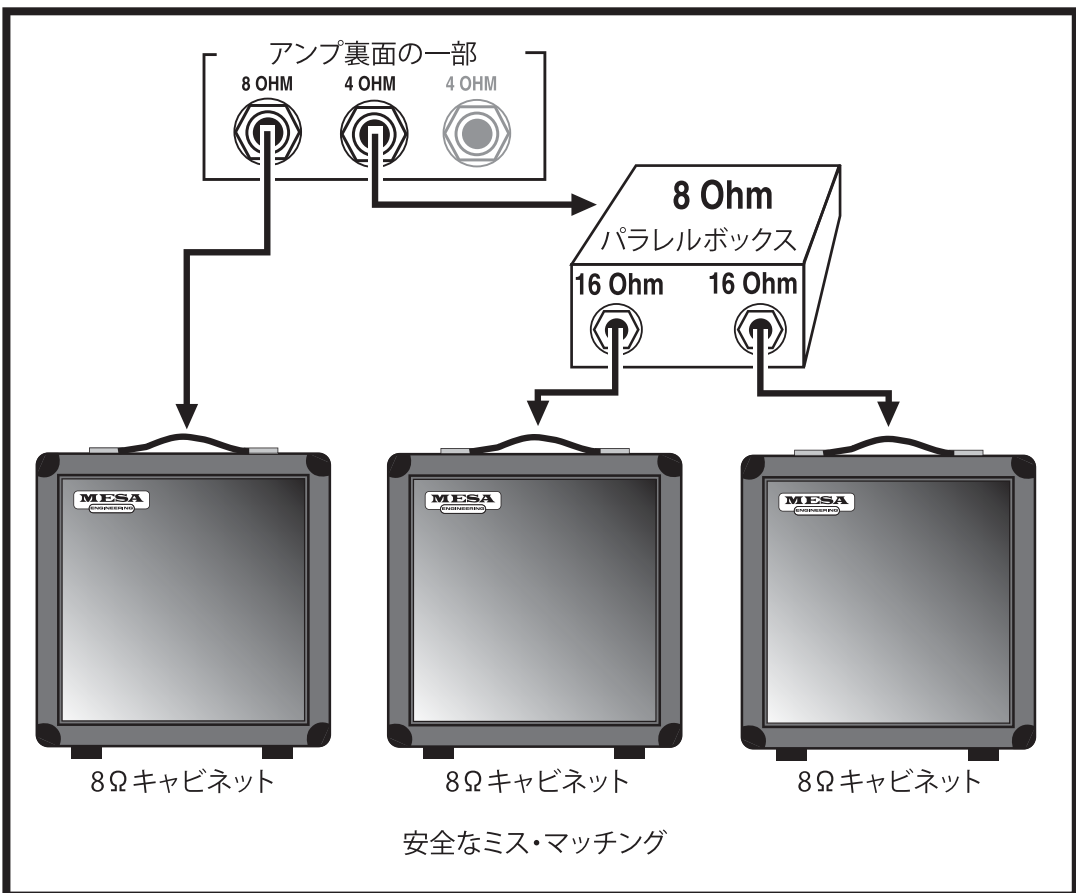


## 接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

13

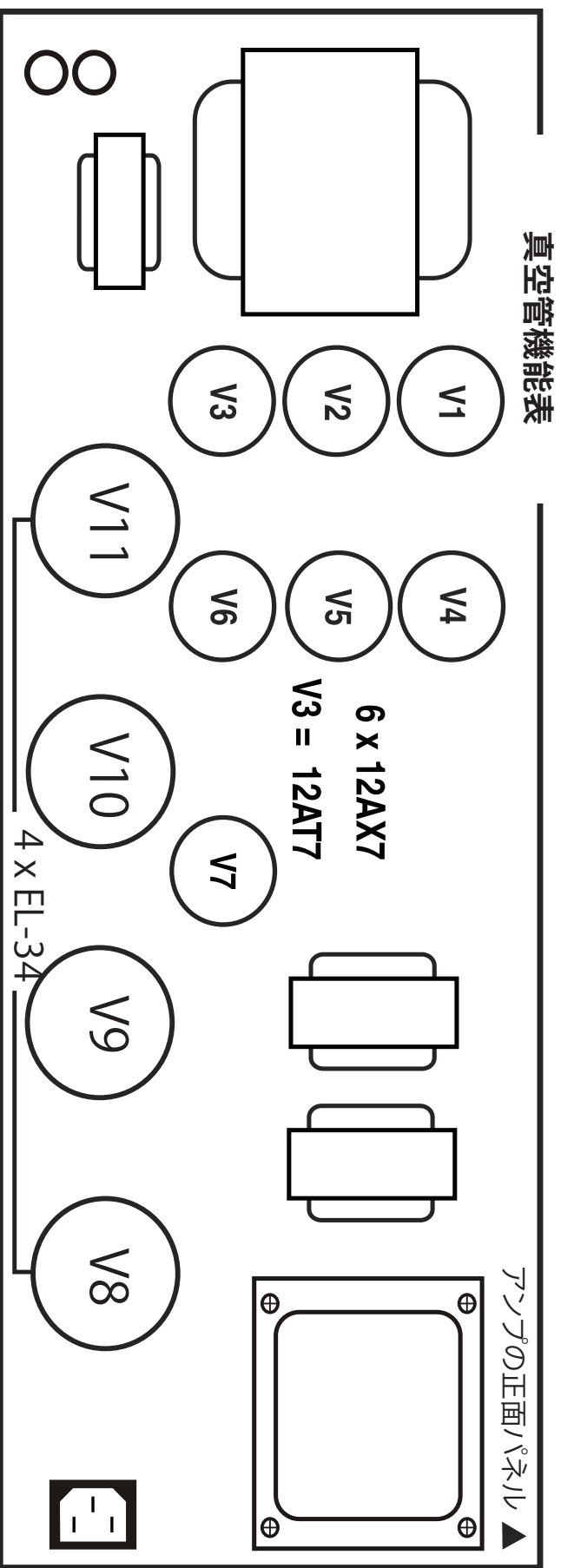


14



# RA-100 Head

真空管を交換する前に必ず電源を切ってください。



真空管機能表

アンプの正面パネル ▲

## プリアンプ真空管

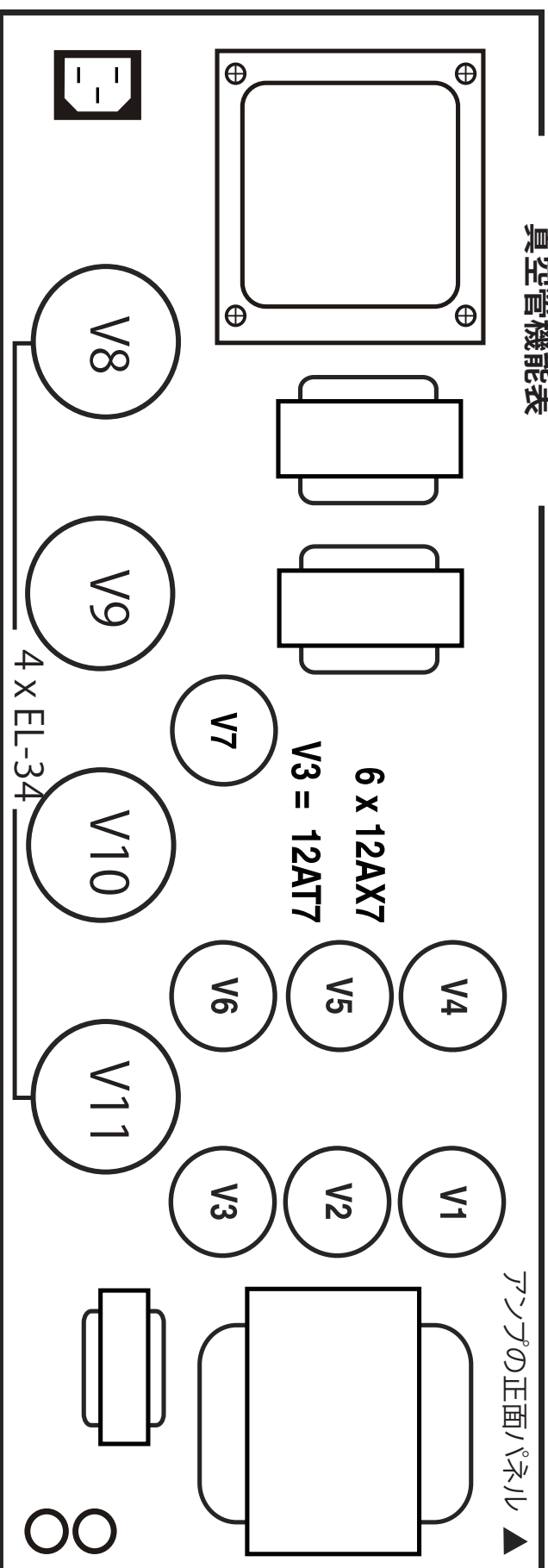
## パワーアンプ真空管

V1A	- Vintage HI & Lo ゲイン第 1 段	V4A	- Clean ゲイン第 1 段	100 Watts = V8, V9, V10, V11
V1B	- Vintage HI ゲイン第 2 段	V4B	- Clean ゲイン第 2 段	50 Watts = V8, V11
V2A	- Vintage Lo 第 2 段	V5A	- Clean ゲイン第 3 段	
	- Vintage HI 第 3 段			
V2B	- Vintage HI & Lo コントロール・	V6A	- リバート・セントド	
	ドライブ・ステージ	V6B	- リバート・リターン	
V3A	- エフェクト・セントド	V7A&B	- ドライバー、フェーズインバーター	
V3B	- エフェクト・リターン			

# RA-100 Combo

真空管を交換する前に必ず電源を切ってください。

## 真空管機能表



## プリアンプ真空管

- V1A - Vintage HI & Lo ゲイン第1段
- V1B - Vintage HI ゲイン第2段
- V2A - Vintage Lo 第2段
- V2B - Vintage HI 第3段
- V2B - Vintage HI & Lo コントロール・ドライブ・ステージ
- V3A - エフェクト・センド
- V3B - エフェクト・リターン

## パワーアンプ真空管

- V4A - Clean ゲイン第1段
  - V4B - Clean ゲイン第2段
  - V5A - Clean ゲイン第3段
  - V6A - リバース・センド
  - V6B - リバース・リターン
  - V7A&B - ドライバー、フェーズインバーター
- 100 Watts = V8, V9, V10, V11  
50 Watts = V8, V11





*The Spirit of Art in Technology*



**ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社**

Email: [service.japan@gibson.com](mailto:service.japan@gibson.com)

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）